

経営者への活きた言葉

日本人の勤労観が揺らいでいる樋口美雄(慶応義塾大学教授)

1. 日本人の勤労観が揺らいでいる。「勤勉に働けば、生活はよくなり、成功する」と考えている人の割合は、フィンランド 84%、米国 75%、韓国 72%に対し、日本では 57%にとどまり、調査22カ国中4番目に低い。(世界価値観調査)
10年前に比べ、「人生の成否を決めるうえで、勤勉よりも運やコネのほうの方が大事である」と考える人が急増している。
2. 変化の背景に、長期にわたる経済成長率低下があることは間違いない。パイが拡大しない以上、勤勉に働いても成果は上がらず、給与は増えない結果、むしろ運やコネのほうの方が大切だと考える人が増えている。この傾向が強まり、人びとの働く意欲が失われた状況では、健全な経済発展は期待できない。
3. 成果主義に基づき、個人の成果が上がれば給与は得られるとしても、長期経済低迷ではどんなに頑張っても成果は上がらない状態が続くと、積極性は失われ、諦めが先行しがちだ。「給与は下がる」「職を失う」といった恐怖心からは、持続的な積極性は生まれてこない。金銭的処遇だけでなく、本人の努力や工夫で生産性が向上したら、余暇・趣味、家庭生活を充実させられるような「ワーク・ライフ・バランス」の推進で応えるのも一つの方法である。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2011年2月12日号)

幹部への活きた言葉

信念や志が高ければ部下はついてくる 佐々木常夫(東レ経営研究所特別顧問)

1. 部下を育てるといいながらも、実は、部下が管理者についてこれるだけの何かを、管理者自身が持たなければならない。それは、自分の信念、自分の理想、自分の仕事のスタンス、自分のやりたいことなど、そして自分が持っているものに強い情熱があること。
すなわち、情熱を持っていなければ、部下はそう簡単にはついてこないと思ったほうがよい。
2. これは、部下はどうあるべきか、部下を育てるという前の話でもあり、課長自身が己を律しなければならぬということだ。
信念や志さえ高ければ、課長としてのスキルなどは後からおのずとついてくるものだ。

参考:「週刊東洋経済」:2011年1月15日号)